



日本統計学会 会報 2005. 4.25 No. 123

発行 日本統計学会
東京都港区南麻布4-6-7 統計数理研究所内
〒106-8569 Tel 03-3442-5801 Fax 03-3442-5924
編集責任 竹村彰通(理事長) / 佐藤整尚(庶務理事)
大屋幸輔(広報理事) / 栗原考次(広報理事)
振替口座 00190-2-61361
銀行口座 みずほ銀行広尾支店普通1092212番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

目次

1 会長就任のご挨拶山本 拓... 1	5.1 「統計と数理計画法の深い溝」...新村秀一... 8
2 会長退任のご挨拶藤越康祝... 3	5.2 「ツーリズムの統計分析」.....福重元嗣... 9
3 2005年度統計関連学会連合大会のお知らせ宮川雅巳... 4	6 「第10回日本統計学会賞」,「第1回統計活動賞」, 「第1回統計教育賞」受賞候補者の推薦募集 ...11
3.1 研究報告の申し込みについて 4	7 修士論文・博士論文の紹介13
3.2 研究報告集原稿の提出について 4	8 評議員会議事録15
3.3 企画セッションと特別講演のご案内 5	8.1 2004・2005年度第2回評議員会議事録(抄)15
3.4 チュトリアルセッションのご案内 5	9 理事会議事録17
3.5 市民講演会のご案内 5	9.1 2004年・2005年第1回理事会議事録17
3.6 ホテル宿泊関連情報 6	9.2 2004年・2005年第2回理事会議事録20
4 統計関連学会連合の発足とその概要藤越康祝... 6	9.3 2004年・2005年第3回理事会議事録21
5 シリーズ：統計学の現状と今後 8	10 事務局から23

本文中に第73回大会(統計関連学会連合大会)のお知らせが掲載されています

1 会長就任のご挨拶

山本 拓(日本統計学会会長)

このたび評議会での選出,ならびに会員の信任投票を経てはからずも日本統計学会の会長に選ばれ大変光栄に思っています。当学会は来年創立75年を迎えるという節目の時期であり,はなはだ微力ですが,理事長,理事会のメンバー,評議会の方々のお力を借りて,学会をより魅力的な組織にするよう努力したいと思いをします。

歴代の会長・理事長のご尽力で,当学会の活動量は私が理事長を務めていた頃(96年夏-98年夏)に比べると,飛躍的に増大していると感じます。それに応じて理事の数も倍増しています。最近のあらたな活動としては,連合大会の開催,その中

での学生のコンペティションの開催,新しい学会賞の創設,分科会の設置,海外の学会との交流の拡大,和文誌の拡充などを挙げる事ができます。そのうちのあるものはすでに定着し始め,またあ



るものはこれから実質的にスタートするという状況です。私はこれらの新しい活動が学会の活動として順調に定着するよう努力したいと思いをします。

しかしながらそのような活動の活発化にも関わ

らず、統計学ならびに当学会を取り巻く環境は必ずしもバラ色とは言えないのではないかと、思われます。たとえば科学研究費の分科細目表の変更に伴い、「統計科学」が総合領域の分科ではなく情報学の細目として位置づけられました。それは多くの方が会報やシンポジウム等で指摘されているように、統計学に深く関わるとされる新しい分野の発展を、必ずしも当学会がうまく吸収できていないという現状につながっていることであると思います。たしかに、当学会の会員数はこの10年で200名程度の増加にとどまっています。上記の分科会（現在3分科会が活動）の創設は、学会内部でより自由にそのような新しい分野の活動を受け入れていこうとするものであり、私としてはこの活動の一層の充実をはかりたいと同時に、さらに新しい方策も模索したいと思っています。

この問題を他の側面から眺めると、日本には統計学に関わる学会が幾つか併存するという状況があります。現時点において当学会が直面する重要な問題として、当学会の統計関連学会への関わり方の問題があります。統計関連学会間の連携については、10年近く種々の形で議論されてきましたが、ここ数年具体化の流れが出来て、統計関連学会連絡委員会が結成され議論が進展して来ました。ここ3年にわたる年次大会の3学会による合同開催もその活動の一つです。そしてこの2月には、「統計関連学会連合」（以下「連合」という）という正式な組織として発足するにいたりました。参加学会は、当学会の他は、応用統計学会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本分類学会です。私と竹村理事長は3月末に開かれた「連合」理事会から、藤越前会長および国友前理事長を引き継ぐ形で出席致しました。年次大会の連合大会としての開催は、今後も「連合」の重要な活動の一つですが、さらにもどのような活動について連携をしていくか、これから具体的に詰めていくこととなります。理念としては、「連合」は統計学界の発展にとって明らかにプラスではありますが、実際には各団体それぞれの伝統・考え方があり、当面は参加団体が協調

できるものから徐々に手をつけていくということになると思います。当学会の主体性を損なうことなく実のある連携の道を探りたいと思っています。この件について会員の皆様の忌憚のないご意見をお聞かせ願えれば幸いです。

統計学の大学院教育に関しては、生物統計学関連では近年いくつかの大学院コースが設置されかなりの進展を見ましたが、統計学に関する独立専攻の大学院設置は長年の悲願にもかかわらず、遅々たる歩みで、相変わらず極めて限られているのが現状です。当学会のみならず統計学界の発展のためには、優れた統計研究者を学界・社会に供給することが不可欠であると考えます。次善の策として昨年末の会報で伴金美氏が述べられているように、大学院教育における大学間のより積極的な協力関係を具体的な形にするよう推進していくことも意味があるのではないかと考えています。なお冒頭に述べましたように、来年は日本統計学会の創立75周年にあたりますので、それを記念して来年はいくつかのイベントを企画したいと思っています。バブル経済の崩壊の影響もあり、それほど大がかりなことは出来ないと思いますが、具体案について現在検討中です。

今後とも皆様がたのご意見、ご支援、ご鞭撻のほどをよろしくお願いいたします。

会長略歴：

山本拓（やまもとたく） 1945年生まれ
1968年 慶応大学工学部管理工学科卒業
1970年 慶応大学工学研究科修士課程修了
1974年 ペンシルヴァニア大学経済学研究科修了
（Ph.D. in Economics）
1976年 創価大学経済学部講師、助教教授、横浜国立大学経済学部教授、筑波大学社会学系教授等を経て
1991年 一橋大学経済学部教授、同学部長・研究科長（1999年度・2000年度）、現在は一橋大学大学院経済学研究科教授

研究分野：

経済データの時系列分析：時系列モデルの予測に関する漸近理論，非正常（共和分）時系列モデ

ルの統計的推論，動学的計量経済モデルの分析．
学術雑誌：Journal of Econometrics, Biometrika, JASA, IERなどに論文がある．

2 会長退任のご挨拶

藤越康祝（前日本統計学会会長）

平成15年1月に思いもかけず伝統ある統計学会の会長に選任されてから2年が過ぎ、このたび任期を満了することができました。この間、学会として新たな対応が望まれている重要な時期であるという認識をもち、会員一人一人にとって魅力のある学会にするためには今何をすべきかを念頭に置きながら学会運営を行ってきました。幸い、国友理事長、竹村新理事長をはじめ理事、幹事、評議員の皆様のご支援・ご協力のもとで何とか学会の運営を行うことができました。この場をかりまして皆様方に感謝する次第であります。とくに理事会においては、お互いに忌憚のない意見をだしながら、種々の問題を検討して来ました。そこには、ある種の緊張感もただよっていたように思います。また、ここで取り上げられた課題の一部は、3つの特別委員会；学会活動特別委員会、学会組織特別委員会、統計教育委員会においても精力的に検討していただきました。さらに、各理事の方にも、通常の事業のなかにも、上記の思いをもって対処していただきました。会長を引き継いだ2年前には、杉山前会長から引き継ぎ事項について懇切丁寧な説明をいただくとともに、今後の学会運営に関して多くの貴重な示唆をいただきました。お陰で、いち早く、学会運営における現状と課題が把握できたように思います。会長就任時に、日本統計学会会報115号（2003.4.30）「会長就任のご挨拶」、および、2003年4月に開催された理事会における資料「会長引き継ぎ事項及び検討事項」において、いくつかの検討課題を述べていますが、これらについてかなり達成することができました。これは、ひとえに理事長をはじめ理事、幹事の方々が、評議員、会員のご協力の下で成し遂げ

てくださったことであり、ここに改めて皆様方に深く感謝申し上げます。以下では、任期中に決まった新たな取り組みのいくつかについて報告します。

予ねてから統計関連学会の協調を強化することが、学会事業の一つとして取り上げられてきましたが、今回連合という組織が発足し、今後この連合のもとで取り組むことができるようになりました。この問題は、3年前に3つの関連学会による連合大会が実施されたのを契機に、6つの関連学会による統計関連学会連絡委員会が構成され、ここで精力的に検討されてきました。ここで考えられている統計関連学会とは、応用統計学会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本統計学会、日本分類学会（アイウエオ順）からなる6つの学会です。この連合では、まず、緩い連合組織を立ち上げて、その中で各種共同事業を推進することを目的にしています。現在、既に連合のホームページが立ち上がっています。今後、連合大会に加え、いろいろな事業が検討され実行に移されることが期待されます。

日本統計学会として日本統計学会統計活動賞と日本統計学会統計教育賞が、新たに創設され、本年度から受賞者の選考が始まることになりました。本学会にはこれまで、日本統計学会賞と日本統計学会小川研究奨励賞が制定され、受賞者を表彰しています。前者は、研究業績を讃えて個人に与える賞であって比較的長期間にわたって実質的に大きな貢献をした人が受賞しています。後者は、統計学会誌に掲載された40歳未満の会員の論文を顕彰する賞です。これに対して今回創設された2つの賞はそれぞれ、広く統計学及び統計の分野に

おける高く評価し得る活動、及び、統計教育における顕著な業績に対して、個人又はグループ・団体を顕彰する賞です。これらの賞の創設により、本学会の基盤が拡大し、より活気のある学会に発展することを願っています。

学会の運営において、大会と雑誌を充実させることは基本的かつ重要な課題であります。大会に関しましては、3年前に実施された連合大会が引き続き、2年間連合大会として実施されました。これにより、講演内容に広がりが生じ、また、2年前より若手の優秀発表者を表彰する制度を新たに設けたことにより、若手の発表者・参加者が急増し、活気のある大会にさせていただいたように思います。雑誌に関しては、和文誌を年1回の出版から年2回発行することになりました。これにより、出版に関して種々の企画も可能になり、例えば、多くの分野のサーベイ論文が比較的早く見られるようになるのではと期待しています。雑誌は学会の顔であり、皆様方からの投稿により、より質の高い雑誌になることを願っています。

本任期中の課題として取り上げましたが、十分

な取り組みや、具体的な道筋がつけられなかったものもあります。例えば、連合組織のもとで、何を実行してゆくべきについては、可能性を列挙しただけで、具体的な検討はこれからの問題であります。また、ここ最近、ゲノム、金融工学、環境問題、ニューラルネットなどの分野において、統計学の立場から取り組むべき新しい研究課題が台頭しています。本学会では、このように取り組むべき新しい研究課題や分野が生じたとき、これらの研究活動を促進するための方策として、3年前に研究分科会が創設され、3つの分科会が活動しています。しかし、このような取り組みをより充実させる必要があるように思います。さらに、大会が連合大会として実施されることが定着しつつあり、本学会独自の新たな事業を企画することや、学会の国際化の充実についても課題が残されています。

幸い、山本新会長は理事長の経験をおもちで、また、竹村新理事長は長く理事を経験されておられ、共に本学会の事情に大変明るい方であります。新会長・新理事長のもとで、本学会が益々魅力的なものになることを願っています。

3 2005年度統計関連学会連合大会のお知らせ

2005年度連合大会企画委員会委員長
宮川雅巳（東京工業大学）

3.1 研究報告の申し込みについて

既にご案内のように2005年度統計関連学会連合大会は、日本統計学会、応用統計学会、日本計量生物学会の3学会の連合大会として2005年9月12日（月）から15日（木）までの日程で、広島県広島市の広島プリンスホテルを会場に開催されます。研究報告をご希望の方は、この度新設された統計関連学会連合のWebページ

<http://www.jfssa.jp>

からお申込み下さい。なお、昨年度までの連合大会用Webページ<http://www.ajss.gr.jp>へアクセスされた場合には自動的に新サイトへジャンプします。この措置は今大会が終了するまでとしますの

で、お早めに新サイトをご利用ください。

研究報告は「一般講演」、「コンペティション講演」、「企画セッション講演」からなります。通常の研究報告は「一般講演」としてお申込みください。「コンペティション講演」の応募資格などはWebをご覧ください。「企画セッション講演」はオーガナイザが一括して申し込んでください。

申込み期間は

2005年5月16日（月）から6月13日（月）までとします。

3.2 研究報告集原稿の提出について

報告申し込みをされた方は、下記の締切日まで

に報告集の原稿を提出してください。「企画セッション講演」については、オーガナイザが一括して送付してください。今大会から原稿枚数は、すべての講演において1頁を標準とし最大で2頁とします。厳守してください。なお、提出方法としては、電子ファイルによる提出と紙原稿による提出を選択できます。紙原稿の郵送先は

〒106-8569 東京都港区南麻布4-6-7

統計数理研究所内 統計関連学会連合大会事務局

です。電子ファイルについてはWebをご覧ください。いずれの場合も

報告集原稿締切日：2005年7月11日（月）

です。納期厳守をお願いします。

3.3 企画セッションと特別講演のご案内

企画セッションは次の7テーマが行われます。テーマ名とオーガナイザは次の通りです。各テーマのねらい等についてはWebをご覧ください。企画セッションの運営はオーガナイザに一任していますので、企画セッションでの講演を希望される方は直接オーガナイザに相談してください。

- 1) テーマ：「科学的な推論の形式としてのBayes統計」
オーガナイザ：柳本武美（統計数理研究所）
- 2) テーマ：「がん臨床試験における統計学の新展開と応用」
オーガナイザ：山本精一郎（国立がんセンター）
- 3) テーマ：「保険とファイナンスにおける統計的リスク管理問題」
オーガナイザ：国友直人（東京大学）、大森裕浩（東京大学）
- 4) テーマ：「政府統計制度の再構築に向けて」
オーガナイザ：西郷 浩（早稲田大学）
- 5) テーマ：「アレイデータ解析周辺にみる新しい統計的視点」
オーガナイザ：樋口知之（統計数理研究所）

- 6) テーマ：「統計関連学会の今後を考える」
オーガナイザ：広津千尋（明星大学）
- 7) テーマ：「幾何学的形態測定学における統計学」
オーガナイザ：三中信宏（農業環境技術研究所）

また、特別講演として次の2件が行われます。

日本統計学会会長就任講演：山本 拓「経済における時系列分析：展望」
オーガナイザ：竹村彰通（東京大学）
日本計量生物学会奨励賞受賞者講演
オーガナイザ：上坂浩之（日本イーライリリー）

3.4 チュートリアルセッションのご案内

チュートリアルセッションは2テーマをパラレルで行います。詳細はWebをご覧ください。

日時 2005年9月12日（月） 13：30～16：30

テーマ1：「Rによる経済・経営データの分析」

オーガナイザ：西郷 浩（早稲田大学）

講演者：山本義郎（東海大）、安川武彦（金融工学研究所）

テーマ2：「疫学研究のデザイン入門」

オーガナイザ：上坂浩之（日本イーライリリー）

講演者：未定

3.5 市民講演会のご案内

2005年市民講演会のご案内

日時：2005年9月12日（月）17：00～19：00

場所：広島プリンスホテル2F（部屋名：瀬戸内）

参加費：無料

テーマ：「原爆被爆者の健康実態に関する統計的考察；被爆後60年の経過」

講演者：Dr. John Cologne（放射線影響研究所、統計部副部長）

（なお、講演は日本語で行われます。）

要 約

過去50年にわたり放射線影響研究所で行ってきた原爆被爆者の健康実態に関する追跡研究により明らかにされた原爆放射線の人への健康影響に関する最新の知見について、その方法論の主体である統計的手法に対する説明を加えながら紹介する。この講演を通じて、一般市民にとって、目下問題となっている職業被曝や医療被曝への対処の仕方について科学的視点に立ったよりの確な判断に至るための参考となれば幸いである。

3.6 ホテル宿泊関連情報

立地環境などの理由により、大会開催ホテル（広島プリンスホテル）のご利用をお奨め致します。宿泊料金は、連合大会参加者割引価格となっていて、1名1泊（朝食無し）で8500円、朝食付きの場合は9500円、また、2名1泊（朝食無し）で13000円、朝食付きの場合は15000円となっています。未就学児のお子様がお同伴の場合、添い寝であれば無料になります。（ただし、朝食は別途有

料になります。）

広島市内には広島プリンスホテル以外にも多くのホテルがありますが、大会会場へのアクセスの利便性を考慮すると、JR広島駅の南口周辺が市内中心部（大手町、紙屋町辺り）のホテルをお奨め致します。なお、大会会場までは、バスでJR広島駅から40分、市内中心部の紙屋町から30分程度かかります。宿泊料金は、1名1泊6300円～13000円程度です。詳しくは、下記のインターネットホームページをご参照ください。

<http://domestic.hotel.travel.yahoo.co.jp/>

<http://www.lastminute.co.jp/>

http://dir.yahoo.co.jp/Regional/Japanese_Regions/Chugoku/Hiroshima/Cities/Hiroshima/Wards/Naka/Travel_and_Transportation/Lodging/Hotels/

文責：大会実行委員長 大瀧 慈

4 統計関連学会連合の発足とその概要

藤越康祝（広島大学）

本年2月4日に「統計関連学会連合」（以下では、単に連合という）の理事会が正式に発足し、これをもって連合が発足することになった。ここで考えられている統計関連学会とは、さしあたり、応用統計学会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本統計学会、日本分類学会（アイウエオ順）からなる6つの学会である。発足の経緯、概要とその意義については、昨年7月に発行された統計学会会報120号の「統計関連学会連合の立ち上げとその意義」（藤越康祝）において詳しく説明している。そこでは、統計関連学会連絡委員会において統計関連学会連合という組織が検討され、幸いにもその立ち上げが大詰めの段階になっていると述べている。しかし、その後、正式な立ち上げまでに半年かかった

ことになる。これは主に、当初1年間は暫定的なものとしてスタートしその間に正式なものにするという方針であったが、立ち上げるからには規定に沿って役員を選出し、できるだけ暫定的なものを少なくした形でスタートしたいという意向があったことと、また、一部の学会で役員の選出が遅れたことも関係した。

検討の経緯やその意義については、前述の会報記事を参照してもらうことにして、ここでは、連合組織の概要と現状について説明することにする。連合の概要についても、一部の点で修正あるいは具体化した点を除き、前述の会報記事と同様である。すなわち、本連合は、統計学の発展・普及を目的とし、統計関連学会が連合して、各種共同事業を推進するために設置された組織である。

また、その精神は「EU方式」であり、緩い連合組織を立ち上げて、その中で詳細を決めていこうというものである。連合の役員は、各学会から推薦された2名および若干名で構成される。具体的な活動は、参加学会すべてが共同して行う基本事業と、一部の学会が共同して行う付加事業に分けられる。前者の活動として、連合のホームページを立ち上げ、広報の強化・共通化を図ることが定められているが、それ以外はスタートしてから検討される。後者の活動のうち早急に検討するものとして、連合大会、名簿の合冊ないしは一本化、会員相互の乗り入れ、などが考えられている。また、今後検討する付加事業として、雑誌の連合・新しい雑誌の発行、郵送などの事務作業の統合、資格の認定、国際交流、などが上げられている。なお、このような事業を検討し、実施するに当たっては、必要に応じて各種委員会を設けて推進する仕組みになっている。より詳細については、下記の連合規定を参照して頂きたい。なお、この規定自身にも細部に関しては暫定的な部分があり、今後検討されることになっている。

連合の理事は、当面、各学会から推薦された2名からなる計12名で構成されている。本学会推薦の理事2名は、本年3月から、山本会長と竹村理事長である（2月までは、藤越前会長と国友前理事長）。第1回連合理事会は、本年2月4日に開催され、そこで連合理事長に広津千尋氏が選出され、連合規定に沿った形での連合がスタートすることになった。なお、今回選出された理事・理事長の任期は平成19年3月31日までである。本連合の英文名はJapanese Federation of Statistical Science Associationsに決まった。現段階における唯一の基本事業であるWebの立ち上げに関しては、Web管理検討委員会のもとで順調に進められ、連合のホームページ<http://www.jfssa.jp>が立ち上がっている。また、ご承知のように本年度の大会は連合大会として実施されるが、次年度の大会もその方向で検討されている。なお、今後の事業について、「事業検討委員会」を新規に立ち上げて検討することになり、目下各学会から再度委員を推薦する

ことになっている。

以上のように、念願の連合が発足し、連合としての活動がスタートしたところである。今後、この組織のもとでいろいろな事業が検討され、実行に移されることであろう。これにより自ずと、各学会あるいは統計学に関する種々の問題点が緩和され、さらに、連合という大きな組織により、これまで取り組みが困難であったものにもチャレンジすることが期待される。一方、連合のやり方によっては、各学会のよき特徴が損なわれる可能性もあり、この点に対する注意も必要であるとともに、各学会において新たな取り組みも重要になるであろう。

「統計関連学会連合規定」

<目的・名称>

第1条 統計学の発展・普及を目的とし、統計関連学会が連合して、各種共同事業を推進するため、統計関連学会連合（以下「連合」と呼ぶ）を設置する。

<会員>

第2条 連合を構成する会員は、第1条の目的を共有する学会および学術研究団体とする。

<事業>

第3条 連合は、第1条の目的に沿った活動として、次の事業を行う。

- (1) 基本事業（参加学会すべてが共同して行う事業）
- (2) 付加事業（参加学会のうち、一部の学会が共同して行う事業）

<組織>

第4条 連合に、理事長、理事からなる役員を置く。

第5条 理事は、各学会から推薦された者（各学会2名）と理事会推薦の若干名によって構成される。

第6条 第3条の事業を企画運営するため、理事長と理事で構成される理事会をお

く、理事会は、実質的な事業推進のために各種委員会をおくことができる。

<役員>

第7条 理事長は、理事会を招集し、議長を務める。

第8条 理事長、理事の任期は2年とし、最長4年までの留任を妨げない。

<会費>

第9条 会計年度を4月1日から翌3月31日までとする。

第10条 会員は、前年度9月末日における各団体所属の個人会員数に応じて会費をおさめるものとする。

第11条 付加事業への参加会員は、付加事業に関わる会費を支払うものとする。

<加盟, 脱退>

第12条 連合への新規加盟は、2/3以上の賛成をもって理事会で承認されなければならない。

第13条 会員は、連合への通告によりこれを脱退することができる。ただし、1年前に申し出ねばならない。

附則 (1) この規定は平成17年2月4日から適用する。

5 シリーズ：統計学の現状と今後

5.1 「統計と数理計画法の深い溝

- Fisherの線形判別関数を超えて -」

成蹊大学経済学部 新村秀一

古より、近くて遠きは男女の仲と言います。統計と数理計画法も似た関係にあるのではないかと思います。統計の研究者であれば、数理計画法の何たるかは多少勉強して知っていると思います。そして、数理計画法の研究者も統計は一応知っている人も多いはずです。しかし、これらの学問の間には深い溝があるようです。

私はこの5年、整数計画法(Integer Programming)を用いた内部標本の誤分類数を最小化する基準による最適判別関数(IP-OLDF)の研究をしています。そして、統計と数理計画法の研究者からなかなか理解されないという辛酸をなめています。

1979年以前に三宅章彦日本医大名誉教授が、標本誤分類数最小化基準による線形判別関数をヒューリスティックに求める研究を行い、私も共同研究者として面白いので手伝う事にしました。しかし、成果の一つを行動計量学会誌に投稿しましたが、私の文章力も拙かったのでしょうか、なかなか通りません。当時編集委員長の池田東京工業大学教授から論文指導を受けたのですが、結局は『医用電子と生体工学』に迂回投稿し医学データ

解析という内容でやっと採用されました。今でも、池田先生に申し訳なく思っています。結局行動計量学会誌は、これまで編集委員もやり発表も行ってきたのですが、論文の1編も載せず、ウイーンに在外研究中に会費の支払いがとどこおっていたこともあり、帰国後退会することにしました。幾つかの学会誌の編集委員をしていた時、私と似たケースがありました。クレジットカードによる自動引き落としが対策としてよいのではないかと思います。

ヒューリスティック研究の問題点は、判別関数の定数項を1に固定した判別係数の空間で最適解を探したのですが定数項が-1の両方で探索する必要があることに気付かなかった点と、誤分類数最小化基準の有用性が示せなかった点にあります。すなわち、既存の統計手法と比較して、内部標本と外部標本の検討で良いこと、新しい統計的知見を何か付け加えられるかの3点を示せなかった点にあります。

平成12年に岡山大学から学位を取得するに当たり、何か良いテーマが無いかと考えていたところ、20年ほど前のこの研究が整数計画法で定式化できることを先行研究を調査せず閃いたわけです。それ以来、『恋に落ちたシェークスピア(映画の夕

イトル)』ならず、「組合せ爆発(研究用語)」の罫にすっかり嵌ってしまいました。何とそれ以来ずっと、あやめのデータ、19変数の説明変数からなる医療データ、115組の2次元乱数データによる内部標本と外部標本の検討という学位論文の枠組みを延々と掘り下げてきた次第です。昨年からは、やっとスイス銀行紙幣データそしてそれと同じ構造を持つ2万件の乱数データの解析に挑戦しています。

今まで分かった事は、内部標本でIP-OLDFの成績がいいのは当たり前ですが、乱数データによるExternal CheckでFisherの線形判別関数や数理計画法の分野で1970年以降研究されているLpノルム型の判別関数の一種であるLP-OLDF(IP-OLDFから導出した手法)に比べて良い事、そしてスイス銀行紙幣データで想像もしていない新しい事がわかりました。すなわち、逐次F検定、Cp統計量、AICで5変数から6変数の判別モデルが選ばれるのに対して、IP-OLDFで誤分類数0の2変数モデルが選ばれ、その2変数を含むすべてのモデルの誤分類数が0になる事がわかりました。すなわち、これまでの統計手法と異なり2変数モデルで十分なことです(詳しくは計算機統計学会の発表を参考下さい)。この点は、2万件の乱数データでも同じ結果になる事を確認しています。また、判別係数と誤分類数の関係や、判別関数の定数項の役割といった、これまでの統計によるアプローチで分からなかったことが分かっています。また、入試得点の合計で合否判定をする自明な判別問題では、既存の判別関数や決定木分析では誤分類数が0になりませんが、IP-OLDFでは当然0になります。すなわち、誤分類数最小化基準は馬鹿げた尺度でなく、現実に応用例のある基準であります。

一方、数理計画法の分野では1970年代以降、線形計画法による回帰分析や判別関数の研究は山程あります。また、整数計画法による私のモデルと似た提案もあることがわかりました。しかし、既に確立した統計手法との真剣な比較がないこと、また何か新しい知見の提案がありません。その理

由は、これらのモデルが統計手法と同じくデータ空間で定式化しているため、統計以上の新しい知見を得るのが難しい為です。数理計画法の利点は、データと判別係数の空間の双対問題を同時に扱える点にあります。また、数理計画法の分野では新しいモデルを提案すればそれでノーベル賞をもらえる伝統があるためです。ですから、数理計画法で統計モデルを提案するこれらの研究者は、真剣に統計手法との比較、何か新しい知見が数理計画法のモデルで得られるかを考えていない事に問題があります。すなわち、彼らは数理計画法で新しい分野を開拓したわけではなく、既に開拓されている統計理論に後で参入したという認識に根本的に欠けているわけです。

このように、IP-OLDFは確率分布を仮定していないため統計研究者には評価されず、数理計画法の研究者とも基本的な認識が異なります。事ほど左様に統計と数理計画法には文化的に深い溝があるようです。

最近、判別分析は理論的に極めつくされ、工学分野からのSVMなどに侵食され精彩を欠いています。しかし、私の研究は組合せ判別分析という新しい世界をブレイクスルーする統計学の正式な嫡子だと思いますので、暖かい支援をお願い致します。

5.2 「ツーリズムの統計分析」

大阪大学大学院経済学研究科 福重元嗣

政府にお金がなくなって、安上がりに景気を良くしようとする、人を集めてお金を使ってもらう方法、すなわちツーリズムの振興が重要な目標となっています。国による『ヴィジット・ジャパン・キャンペーン』や離島の振興、小さな町の町おこしなど、どれもこれも、ツーリズムの振興が大きな目標です。このように注目されているツーリズムに関して統計的に解析する方法には、どんなものがあるのでしょうか。

ツーリズムの需要予測: 観光経済学や観光マーケティングで扱う最も基本的な分析です。基本は需

要関数を回帰分析によって推計するという接近方法によります。地域の社会経済的要因からツーリズムに対してどれくらいの需要があるのか、といった分析から、特定のキャンペーンやコマーシャルを見た人が、観光需要を発生させるのか、といった効果分析なども考えられます。

観光地の魅力度：個々の観光地の魅力をどうやってはかるのか、具体的にアンケート調査をしてたずねるのか、どれくらいの人があるポイントを訪れているのかをもとにはかるのか、その計測方法は大きく二つに分かれます。後者は先に述べた、需要の予測をもとに、どのくらいの費用をかけているのか、といったトラベル・コスト法によって、観光地の価値をはかる方法があります。前者は、基本的には表明選好法と呼ばれる手法です。CVM (Contingent Valuation Method) やコンジョイント法と呼ばれる、観光地や観光地の持つ魅力について金銭的な価値を測定する方法があります。アンケートをもとに、因子分析や多次元尺度構成法をもとに、観光地の魅力を形成している要因を分析する方法もあります。特定の地域の見所をピックアップするにはこの方法が用いられるようです。

回遊行動：ツーリストの行動を考えると、一箇所の観光地だけでなく、複数の観光地やイベントを巡るというのは、普通のことです。では、どの複数のポイントをめぐるのが、A地点からB地点へ回遊して行く確率はどうか、という分析となると、マルコフ回遊モデルを用いた分析が可能となってきます。

都市計画：統計分析とは直接関係ないかもしれませんが、ツーリストが大量にやってくる観光地では、ツーリストをどのように管理、あるいは誘導するのかといった問題も重要です。交通網の設計や観光スポットの配置など、都市計画の一部として考えないといけない側面も出てきます。交通シミュレーションや景観のデザインや評価にも、統計的な分析が間接的には重要でしょう。

地域へのインパクト：政策的には最も重要な分野の一つです。計量経済学的モデルを用いてツーリズムが経済全体に対してどのくらいのインパクトを与えるのかといった分析が基本です。統計モデルを推計してシミュレーションするだけでなく、産業連関表をもとに、観光需要が経済全体や特定の産業にどのようなインパクトを与えるのかといった分析も行われています。

もちろん、経済学的なインパクトだけでなく、特定の地域にツーリストが沢山来ることに対して、地域の住民がどのように感じるのか、といった社会学的な分析も重要です。因子分析や多次元尺度構成法、さらには共分散構造分析などがこの分野の分析には重要でしょう。

このように様々な統計的な分析が考えられます。しかしながら、実際には多くの分析が行われているとはいいがたい状況にあります。

< 統計の問題点 >

多くの自治体では、様々な観光地の観光客の数、自治体内での観光客の宿泊数や消費額について統計調査を行っています。イベントによる人出は、警察による調査の対象です。鉄道の駅の乗降客については、鉄道会社の調査があります。この他にも観光業者の団体である日本観光業協会や、日本経済新聞、日本交通公社などによるアンケート調査など、非常に多くの統計が存在しています。

しかしながら、これらの統計を用いた統計分析を行うことは厄介です。それは『国勢調査』や『家計調査』といった国による統計調査とは異なり、調査を行う主体によって調査方法や調査項目が様々であり、全国的に統一された基準によって調査されていません。また、特定の観光地を訪れた観光客が、どのようなイベントや観光地を巡って当該地にきたのかは、観光地をベースにした調査が多いため、ほとんど調べられていないのが現状です。

このような状況において、統計学の研究者の役

割は大変重要です。多くの観光振興政策の成果について、成果を測らず政策（プロモーション）だけで終わってしまうのか、それとも個々の政策の成果をきっちり評価するのか、調査を行っている人と観光政策を行っている人を繋ぐことが必要です。統計学の研究者が持っている、統計調査の手法や集められたデータの解析方法についての知識を、具体的に活用しなければならない時がすぐそこまで来ています。既存の統計調査をどのように

活用するのか、どのような統計モデルを考え、どうやって推計や予測を行うのかといった解析手法の問題群も、その多くは手付かずのままです。観光客数を正確に調査するためや観光客の回遊行動に関する調査方法も未解決です。実務家を説得するには、統計学がどんなことが出来るのかを、具体的に示すところから始めないといけないのですが、多くの研究者が、この分野に興味をもたれて参入されることを期待いたします。

6 「第10回日本統計学会賞」、「第1回統計活動賞」、 「第1回統計教育賞」受賞候補者の推薦募集

「第10回日本統計学会賞」、「第1回統計活動賞」、
「第1回統計教育賞」の推薦募集を下記の要領で行います。書式については、学会事務局にお問い合わせください。各賞の受賞候補者の推薦締め切りは2005年6月6日（月）です。推薦書の宛先は学会事務局です。

【対象範囲】

各賞受賞の対象となる者は、その年齢、性別、国籍、日本統計学会の会員・非会員の別を問わない。なお、統計活動賞および統計教育賞については個人のみならず、グループや団体も受賞対象になる。

【推薦方法】

各賞受賞対象者の選考は、会員の推薦を受けて、それぞれの賞の選考委員会が実施する。

受賞候補者を推薦することができる者は、日本統計学会の正会員、名誉会員に限る。推薦者は各賞所定の書式にしたがって推薦する。

【発表】

各選考委員会は、その結果を評議員会および学会総会において報告し、大会期間中に授賞式を行う。

なお、各賞の概要を以下にご紹介します。

日本統計学会賞

【名称】

日本統計学会賞

【趣旨】

統計学の研究及び普及に対して貢献した個人に対して授与し、その功績を顕彰する。

【対象範囲】

対象とする分野は次のとおりとし、全体として年間3名程度に授与する。

- ・理論統計学の理論の発展に多大な貢献のあった者。
- ・実証・応用・計算；この分野は以下のような内容を含む。

- (1) 人文・社会系では、経済、経営の実証分析、社会学、言語学、心理学の調査・分析など、統計的手法を利用して社会的現象を解明するのに貢献のあった者。
- (2) 医学、工学、農学、理学などでは統計的手法の適用による具体的な問題の解決に対する貢献のあった者。
- (3) 統計計算では、統計的分析のためのアルゴリズム・ソフトウェアの開発に貢献のあった者。
- (4) 応用一般として、分野を問わず統計調査の標本設計、経営管理などで貢献のあった者。その他：理論・実証・応用などを

含め、幅広く統計学の普及・発展に貢献した者。

[選考方法]

推薦者は対象範囲に定められた分野のいずれかに候補者を推薦する。受賞対象者の選考は、会員の推薦を受けて、選考委員会が実施する。

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長，前会長，理事長，会誌編集担当理事2名，および会長が推薦し評議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は，原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

賞状および記念品などの副賞を授与する。副賞は，原則として「統計学の学会活動60周年記念基金」の果実の範囲とする。

統計活動賞

[名称]

日本統計学会統計活動賞

[趣旨]

研究や教育に限らず，広く統計学及び統計の分野において高く評価しうる活動を顕彰する。

[対象範囲]

授賞の対象は，次に掲げる分野の活動である。授賞対象は，毎年2件以内とする。

- (1) 統計学及び統計を支える基盤の充実・高度化（統計関連領域の研究・教育組織の設立，実務家へのサポート，統計に関する企画・推進等）。
- (2) 研究・教育のための環境整備に対する貢献（ソフトウェア，データ・ベースの開発及び支援等）。
- (3) 新たな研究領域・分野の開拓。
- (4) 新たな統計の作成（個人，グループ・団体等による統計の作成と継続，及び作成機関における従来活動を越えた取組み等）。

[選考方法]

授賞対象となる活動は，日本統計学会に設けた選考委員会が会員からの推薦を受けて選考する。

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長，前会長，理事長，学会活動特別委員会委員長，及び会長が推薦し評議員会が承認した者若干名
- ・選考委員会委員長は，原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

受賞対象となる活動を担った個人又はグループ・団体には，賞状及び賞牌を授与する。

統計教育賞

[名称]

日本統計学会統計教育賞

[趣旨]

統計教育の研究及び実践において顕著な業績を挙げた個人又は団体を顕彰し，わが国の統計教育の発展並びに統計の普及，啓蒙に貢献することを目的とする。

[対象範囲]

授賞の対象となる者は，次に掲げる分野において多大の貢献のあった個人又は団体とし，日本統計学会の会員・非会員の別，国籍を問わない。授賞対象は，毎年2件以内とする。

- (1) 統計教育に関する著書，論文
- (2) 統計教育の実践
- (3) 統計教育に用いるソフトウェア，テキスト，教材等の開発
- (4) 統計の普及，啓蒙
- (5) その他統計教育の発展に寄与する活動

[選考方法]

授賞対象者は，日本統計学会に設けた選考委員会が会員からの推薦を受けて選考する。選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長，前会長，理事長，統計教育委員会委員長，及び会長が推薦し評議員会が承認した者若干名
- ・選考委員会委員長は，原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

受賞者には，賞状及び賞牌を授与する。

7 修士論文・博士論文の紹介

修士論文・博士論文の紹介を、(1) 氏名 (2) 学位 (3) 取得大学 (4) 論文タイトル (5) 主査・指導教官等、の順で記載します。

修士論文

- 1 大塚 静 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) 患者調査における一般診療所での特異施設の検出とそれへの対応 (5) 吉村 功
- [2](1) 角元慶二 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) 活性化化合物探索におけるin silicoスクリーニングの有効な利用法の統計学的検討 (5) 吉村 功
- [3](1) 柏木 渉 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) がんの多施設臨床試験における施設を考慮した割付と解析 (5) 吉村 功
- [4](1) 佐藤真理 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) マウスリンフォーマ試験の統計解析における大森法の有効性の検証 (5) 吉村 功
- [5](1) 竹村 徹 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) 長野コホートにおける骨関連疾患とメタボリックシンドロームの関係に関する研究 (5) 吉村 功
- [6](1) 水口美加 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) 利尿剤の臨床薬理試験における薬効メカニズムを考慮したデータ解析法の事例研究 (5) 吉村 功
- [7](1) 中岡隆平 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) がんの第I相試験におけるCRM法の中止基準の提案とその性能評価 (5) 吉村 功
- [8](1) 正木伸之 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) 被験者数に幅を持たせた抗癌剤第II相試験の最適デザイン (5) 吉村 功
- [9](1) 松尾一隆 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) 3群比較臨床試験における臨床用量決定法と被験者数設計法の研究 (5) 吉村 功
- [10](1) 松下泰之 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) 製薬企業の自発報告データベース

- に基づく安全性情報検出法の研究 (5) 吉村 功
- [11](1) 中西豊支 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) メタアナリシスにおける多重性を考慮した有意な研究のサブグループの検出法 (5) 高橋武則
- [12](1) 藤井陽介 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) 市販前の臨床試験を考慮した医薬品の有害事象のシグナル検出についての統計的検討 (5) 仁木直人
- [13](1) 松岡伸篤 (2) 修士 (工学) (3) 東京理科大学 (4) メタアナリシスにおける公表バイアスの補正法 (5) 狩野紀昭
- [14](1) 岩原香織 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) On the Multivariate Tukey-Kramer Type Procedure for Comparisons with a Control (5) 瀬尾 隆
- [15](1) 西山貴弘 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Approximation to the Upper Percentiles of $T^2_{\max}c$ Statistic in Elliptical Distributions (5) 瀬尾 隆
- [16](1) 大塚 渉 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Linear diagonals-parameter symmetry and quasi-symmetry models for cumulative probabilities in square contingency tables with ordered categories (5) 富澤貞男
- [17](1) 碓井英司 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Generalized total uncertainty measure for two-way contingency table with nominal categories (5) 富澤貞男
- [18](1) 海老江浩一 (2) 修士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) A model of marginal asymmetry for square contingency tables with nominal categories (5) 富澤貞男
- [19](1) 白石友一 (2) 修士 (数理情報学) (3) 東京大学 (4) イジングモデルにおけるギブスサンプリングの収束時間の解析 (5) 竹村彰通
- [20](1) 杉谷康雄 (2) 修士 (農学) (3) 東京

大学(4) 画像解析によるAFLPのタイピング(5) 岸野洋久

[21](1) 手塚陽介(2) 修士(工学)(3) 成蹊大学(4) 不完全データ解析における推定の精度評価(5) 岩崎 学

[22](1) 松久保淳一(2) 修士(数理学)(3) 九州大学(4) 離散観測に基づく小さな拡散過程のドリフト推定(5) 内田雅之

[23](1) 馬場裕子(2) 修士(数理学)(3) 九州大学(4) 非線形繰り返し測定値における信頼領域(5) 百武弘登

[24](1) 山崎利紗(2) 修士(数理学)(3) 九州大学(4) 非線形繰り返し測定値における2標本問題(5) 百武弘登

[25](1) 藤井武志(2) 修士(数理学)(3) 九州大学(4) 非線形判別手法について(5) 小西貞則

[26](1) 内海令奈(2) 修士(数理学)(3) 九州大学(4) 関数データに基づく正準相関分析について(5) 小西貞則

[27](1) 平川史明(2) 修士(数理学)(3) 九州大学(4) 高次元データの次元圧縮に基づく識別・判別(5) 小西貞則

[28](1) 茅野光範(2) 修士(数理学)(3) 九州大学(4) 正則化基底展開法に基づく関数化主成分分析(5) 小西貞則

[29](1) Nurma Midayanti(2) 修士(環境理工学)(3) 岡山大学(4) Variables Combination to Improve Accuracy of Classification and Regression Trees(5) 栗原考次

[30](1) 村上英之(2) 修士(環境理工学)(3) 岡山大学(4) GISを用いての岡山市における土地価格形成要因の分析(5) 栗原考次

[31](1) 石山雄大(2) 修士(経済学)(3) 早稲田大学(4) 多変量解析のポートフォリオ選択への応用(5) 西郷 浩

[32](1) 廣谷友紀(2) 修士(経済学)(3) 早稲田大学(4) 企業の財務分析(5) 西郷 浩

[33](1) 加藤雅章(2) 修士(理学)(3) 筑波大学(4) 非心分布と標本相関係数の分布の近似

(5) 赤平昌文

[34](1) 坂入賢市(2) 修士(理学)(3) 筑波大学(4) Location and scale equivariant estimation under LINEX loss functions(5) 赤平昌文

[35](1) 諏佐洋一(2) 修士(教育学)(3) 筑波大学(4) Statistical properties of record values(5) 赤平昌文

博士論文

1 寒水孝司(2) 博士(工学)(3) 東京理科大学(4) 統計学的視点からの患者調査の改善に関する研究(5) 山口俊和

[2](1) 小林 景(2) 博士(情報理工学)(3) 東京大学(4) Bayesian theory for kernel machines and network models(5) 駒木文保

[3](1) 清 智也(2) 博士(情報理工学)(3) 東京大学(4) Asymptotic properties of estimators and information criteria for random fields(5) 駒木文保

[4](1) 田野倉葉子(2) 博士(学術)(3) 総合研究大学院大学(4) Generalization of Akaike's Power Contribution(5) 主査: 佐藤整尚(指導教員: 田村義保)

[5](1) 吉田 亮(2) 博士(学術)(3) 総合研究大学院大学(4) Mixture Models in Bayesian Computation and Mixed Factors Analysis(5) 主査: 江口真透(指導教員: 樋口知之)

[6](1) 渡部伸一(2) 博士(統計科学)(3) 総合研究大学院大学(4) Principal Component Analysis and Local Regression Analysis on Acoustic Logging Data(5) 主査: 中野純司(指導教員: 江口真透)

[7](1) 粕谷宗久(2) 博士(統計科学)(3) 総合研究大学院大学(4) モンテカルロ法とその非線形経済統計モデルへの応用(5) 主査: 中野純司(指導教員: 田村義保)

[8](1) 荒木由布子(2) 博士(数理学)(3) 九州大学(4) Statistical Modeling for Functional Data via Regularized Basis Expansions(5) 小西貞則

[9](1) 洪 韓杓(2) 博士(学術)(3) 岡山大

学 (4) Studies on Hotspots Detection for Multivariate Spatial Data using Echelons (5) 栗原考次

[10](1) 成 社旻 (2) 博士 (学術)(3) 岡山大学 (4) Studies on Influence Analysis in Cox

Proportional Hazards Models (5) 栗原考次 (田中豊)

[11](1) 馬場国博 (2) 博士 (理学)(3) 慶應義塾大学 (4) Partial, Conditional and Multiplicative Correlation Coefficients (5) 柴田里程

8 評議員会議事録

8.1 2004・2005年度第2回評議員会議事録

日時：2004年11月13日(土)13:30~16:00

会場：統計数理研究所，会議室

出席者：藤越康祝会長，竹村彰通理事長，伊藤彰彦，稲葉弘道，岩崎 学，北川源四郎，国友直人，杉浦成昭，杉山高一，高橋 一，田中 豊，田村義保，垂水共之，道家暎幸，大戸隆信，樋口知之，広津千尋，福井武弘，藤井光昭，舟岡史雄，前田忠彦，牧野都治，村上征勝，森棟公夫，矢島美寛，宿久 洋，山口和範，山本 拓，渡辺美智子(以上32名)。委任状3通。

資料1．日本統計学会賞会計報告

資料2．研究部会最終報告「多重比較とその関連分野の総合的研究」

資料3．研究部会新設申請書「高次元データ解析法の開発と評価に関する研究」

資料4．会長選挙資料(含候補者推薦資料)

事前送付資料

・規制改革・民間開放推進会議への申し入れ(政府統計調査の信頼性維持)関係資料

机上配布資料

・日本学術会議会員候補者に関する情報提供について
・2004・2005年度理事会名簿
・研究分科会活動報告書
・政府統計調査の信頼性維持に関する緊急アピール(案)

1. 開会

定足数を満たしていることが確認され，藤越会長より開会が宣言された。

[報告事項]

2. 理事会からの報告

竹村理事長より次の事項に関する報告があった。1) 2004・2005年度理事会の構成，2) 和文誌の年2回刊行化(2004年度より；これに伴い巻号数の付番方式が第34巻シリーズJ第1号，等となった)，3) 諸学会連合(横断型基幹科学技術研究団体連合，日本経済学会連合)に関する担当者，4) 科研費の申請に関する事項(本学会の申請状況及び統計科学への応募促進の必要性等)

3. 学会賞会計報告

藤越会長より，資料に基づき学会賞会計報告があった。

4. 研究部会最終報告

2003年・2004年に活動し，12月に活動期間満了予定の研究部会「多重比較とその関連分野の総合的研究」について，主査の鎌倉稔成会員からの提出資料に基づき藤越会長が活動内容を報告し，了承された。

5. 研究分科会活動中間報告

2002年12月より4年間の活動を予定する3つの研究分科会から，それぞれ資料等に基づき中間活動報告があった。1) 統計シミュレーション研究分科会：杉山高一主査，2) 統計教育部会(分科会)：村上征勝主査，3) 計量経済・計量ファイナンス分科会：森棟公夫主査。

藤越会長より，今後も周囲に応募を呼びかけて頂きたい旨の依頼があった。

6. その他

(ア) 統計関連学会連合について

竹村理事長より、統計関連学会連合の発足に向けた対応状況に関してまとめて報告があった。1) 規約案に基づく参加学会からの推薦理事の件(藤越会長、国友前理事長の2名)、2) 事業小委員会の委員長の件(竹村理事長が引き継ぎ)、3) 2004年度の連合大会開催報告、4) 2005年度連合大会の予定。

藤越会長から連合の今後の活動方針に関する補足説明があり、広津評議員(現連絡委員会議長)からは、2005年1月以降に予定される新理事会・理事長の決定と共に正式に発足見込みであることと、発足前後のスケジュールに関する説明があった。

以上の報告に基づき、連合大会の趣旨や効果等に関する意見交換を行った。

(イ) 全国統計教育研究協議会の活動について

藤越会長より、10月22日に開催された全国統計教育研究大会(全国統計教育研究協議会主催)への参加報告があり、学校教育における統計関係のカリキュラムの問題点等の指摘があった。渡辺統計教育委員会委員長より、同委員会等を通じた協議会への協力活動の紹介と共に学会としての対応の必要性に関する意見が述べられ、伊藤評議員からは同協議会の活動紹介があった。藤越会長から本評議員会としても活動支援をしたいとの提言があり、具体的な方策について意見交換を行った。

[審議事項]

7. 研究部会の新設

藤越会長から、資料に基づき広島大学の若木宏文会員から新設申請のあった「高次元データ解析法の開発と評価に関する研究」の紹介があり、審議の結果発足を承認した。(2004・2005年度[2004年12月から2006年12月まで]活動予定。)

8. 監事の選任

竹村理事長から、舟岡史雄、渡辺則生両評議員に監事を委嘱するとの提案があり、承認された。

9. 次期会長候補者の選出

佐藤評議員から、次期会長候補者の本評議員会での選出手続き、およびその後の会員による信任投票手続きの説明があり、藤越会長から、資料に基づき会員から1名の候補者推薦があった旨紹介された。以上を参考とした投票を行った結果、山本拓氏を次期会長候補者として選出した。同氏より候補者となることについての受諾意思が表明された。

10. 学術会議の会員候補者の情報提供について

竹村理事長より、題記に関する学術会議会員候補者選考委員会からの依頼内容(8名分の情報提供)が紹介された。藤越会長から、各種提供条件を満たす必要があること、統計関係学会等からの会員を確保するためにも臨機応変の対応が必要となること、などの理由で選挙に基づく推薦が困難との認識が示された。候補者の選定方針に関する意見交換を行い、現行の研究連絡委員会に代わり緊急の課題・新しい課題に迅速・柔軟に対応するために新設される「連携会員」の選考情報としての利用も想定されることに留意する必要などが指摘された。藤越会長より、評議員から書面による推薦を集め、会長と理事長の合議で情報提供する候補者を選定したいとの提案がなされ、審議の結果了承された。

11. 政府統計調査の民間開放化について

竹村理事長より、規制改革・民間開放推進会議で提言が検討されている題記の点について、学会として緊急アピールを出すことの必要性を会長と共に検討する至った経緯について事前送付資料に基づき説明があった。伊藤、大戸、福井の各評議員から資料に基づいて背景要因の説明があった。藤越会長より、同会議への申し入れおよび政府統計の信頼性確保に関する緊急アピールの形で学会の意見表明を行うことの提案があり、アピール発

表に際する学会としての立場についての意見交換を行った。

審議の結果，学会として申し入れおよびアピールを行うとの方針が承認され，具体的な内容は，関連学会・団体等との協調に配慮しつつ，会長と理事長が関係評議員・会員の協力を得てとりまと

めることになった。

12. 次回評議員会の開催

連合大会（学会大会）時（2005年9月）の開催を予定する。

9 理事会議事録

9.1 2004年・2005年第1回理事会議事録

日時：2004年9月25日（土）12：00～15：30

場所：統計数理研究所，会議室

出席：藤越康祝会長，竹村彰通理事長，田中勝人（会誌編集・欧文誌），鎌倉稔成（会誌編集・和文誌），西郷 浩（大会企画），今野良彦（大会企画），宮川雅巳（大会企画），大瀧 慈（大会運営），栗原考次（広報：ホームページ），国友直人（涉外：一般），汪 金芳（涉外：国際），岩下登志也（涉外：庶務），田村義保（涉外：プロジェクト研究），佐藤整尚（庶務会計・責任者），前田忠彦（庶務会計），酒折文武（幹事：ホームページ）
カッコ内は新理事会における役割分担

旧理事会より出席：早川 毅（大会運営），瀬尾隆（涉外），宿久 洋（広報）

《報告事項》

<議題1>会長・理事長からの報告

[会長]

藤越会長より旧理事会における精力的な会務への取り組みに対する謝辞と，学会の更なる活性化に向けて新理事会にも活発な活動を期待する旨の発言があった。続いて，評議員会関係を中心として旧理事会から引き継ぎ事項および関連する経緯として下記の点についての説明があった。(1) 2004・2005年度評議員会の発足および旧評議員会からの引き継ぎ事項（竹村理事長選出，各委員会からの発足等）。(2) 統計関連学会連絡委員会の活動状況について（連合組織の立ち上げ，05年度連合大会関連他）。

[理事長]

竹村理事長より新理事会の構成方針の概略，欠席者の役割分担等の説明があった（出席者に加え中野純司（情報），大屋幸輔（広報：会報），丸山祐造（庶務会計））。

<議題2>新理事の紹介

各理事より自己紹介および引き継ぎ状況の報告があった。

[会誌編集]

欧文誌担当田中理事より，今年のVol.34, No.2まで前任の久保川編集長の責任下で編集されること，今期編集委員会も外国人数名を含む編集委員の委嘱を経て活動を開始したこと，投稿数の推移と現況等の報告があった。前理事会からの引き継ぎとしてモノグラフ・シリーズの刊行を出版社から打診され継続検討したい旨説明された。

和文誌担当鎌倉理事より，2005年3月発行予定の号（第34巻中の和文誌の2号目）までは加納悟前理事の責任下で編集され，その後を引き継ぐ予定であること，2005年度中の発行予定号の企画状況についての報告があった。

[大会]

大会運営担当大瀧理事より，2005年度の大会は，応用統計学会，日本計量生物学会との連合大会として，広島プリンスホテルを会場として2005年9月12日～15日の日程で開催予定である旨の報告及び協力依頼と挨拶があった。

大会企画担当の今野，西郷，宮川の各理事から挨拶があり，更に宮川理事より柴田里程前理事からの引き継ぎ状況の報告があった。

[広報]

広報（ホームページ；HP）担当の栗原理事より、大屋理事と広報理事間の引き継ぎを行ったこと、汪理事と協力し海外のページとの相互リンクを含む英語版HPの充実を図る予定であること、等の報告があった。またHP管理を担当する酒折幹事から挨拶があった。

欠席の大屋理事に代わり、宿久前担当理事から会報第121号（10月20日発行）の編集状況に関する報告があった。

〔渉外〕

国友理事（前理事長）より、竹村理事長の依頼により、統計関連学会連合への継続対応等のために渉外担当として理事会に残ることになり、併せて2006年の大会の検討等を担当するとの報告があった。

渉外（国際）担当の汪理事より、英文HPや海外学会との連絡、また海外研究者の招聘等を担当する旨報告があった。

渉外（庶務）担当岩下理事より引き継ぎ状況（瀬尾前理事からの報告の項参照）についての説明があった。

渉外（プロジェクト研究）担当の田村理事より、研究部会・分科会の活性化や活動に基づくシンポジウム等の催事の企画調整、科研費への応募促進に向けた学会としての対応他を検討する旨報告があった。

〔庶務〕

竹村理事長の発案で庶務会計担当が3名体制となったことが紹介された。佐藤、前田両理事から挨拶があり、他に丸山理事が担当し、佐藤理事が責任者となることの報告があった。佐藤理事より、科研費の申請（研究成果公開促進費「学術定期刊行物」）に関する準備状況について説明された。

<議題3> 前理事会からの引き継ぎ事項について

宿久前広報担当理事から、前理事会からの申し送り事項として、会報の編集（目次作成）の方針、年間4号発行体制の見直し、HPや学会用サーバー管理の外注化等の検討事項が説明された。

瀬尾前渉外担当理事より、学会誌の電子ジャー

ナル化の現状と課題、入会案内文書の改訂とウェブ経由の入会手続きの検討、賛助会員の減少傾向等に関する申し送り事項が説明された。

早川前大会運営担当理事より、統計学会大会の実行委員かつ連合大会の実行委員長としての活動の概要と大会の開催報告があった。また連合大会に関係する委員会等の構成方法を再検討すると良いのではないかと提言があった。

国友前理事長から、次の点に関する補足説明があった。(1)和文誌の年2号刊行化,(2)連合大会の開催に際する本学会の体制と他学会・大会実行委員会との関係調整,(3)事務局員の退職予定と後任への引き継ぎ状況,(4)統計関連学会連合特に現連絡委員会関係の事項,(5)賛助会員の減少傾向への対策,(6)統計学会誌の国内外での販売促進。

<議題4> 会長選挙について

佐藤理事より会報第121号にて会長候補の推薦依頼記事を掲載予定との報告があり、評議員会での候補者選出、会員による選挙等、手続きと日程の確認を行った。

<議題5> 研究部会の公募について

佐藤理事より会報第121号にて研究部会の公募記事を掲載予定との報告があり、藤越会長より現在の部会1件が本年12月で終了するので、積極的な応募を周囲の会員に呼びかけて頂きたいとの依頼があった。

<議題6> 協賛・後援について

藤越会長より前期理事会任期中に依頼のあった次の2件の催事について、協賛することを承認済みである旨の報告があった。(1)国際シンポジウム「システムティック・レビューとメタ・アナリシス」、(2)第8回中国日本統計学シンポジウム。

【審議事項】

<議題7> 72回大会の総括と反省点について

竹村理事長より、第72回大会（第3回統計関連

学会連合大会)の開催概要について、資料に基づき、チュートリアル、シンポジウム、市民講演会、コンペティションを含む研究報告会の各種セッションを実施し、最終参加者数620名、発表件数292件と盛会であった旨の総括があった。また会期中に開催された統計関連学会連絡委員会での次回連合大会開催を巡る審議が資料に基づき紹介された。

引き続き、早川前大会運営担当理事(連合大会実行委員長)から、資料に基づき大会の反省点に関する報告、参加者と出展企業に対するアンケート結果およびそれに対する柴田里程企画委員長のコメント等が紹介され、会報で会員に報告すると共に、次期連合大会実行委員会に引き継ぐこととなった。

<議題8>統計関連学会連絡委員会について

竹村理事長および国友前理事長より前期理事会における統計関連学会連絡委員会への委員の参加状況に関する説明があり、竹村理事長より統計関連学会連合の発足に備えて当面は従来からの参加委員を中心に継続委嘱したい旨の提案があった。審議の結果、藤越会長、竹村理事長、国友渉外担当理事、柴田前理事が継続参加する他、宮川理事(大会企画担当)と佐藤理事を新たな委員として推薦する方針が了承された。大瀧理事は他学会の推薦に加えて連合大会実行委員長としても連絡委員会に参加する見込みである。

<議題9>賞の創設及び関連する申し送り事項の取り扱いについて

藤越会長より9月の旧評議員会で二つの賞(統計活動賞、統計教育賞)の創設が承認され、2005年から運用する旨の説明があり、会報等での会員への周知と受賞者推薦依頼の方法を確認した。また、研究業績賞の創設については新評議員会への申し送り事項になった旨の説明があった。国友前理事長より創設される二賞の趣旨と研究業績賞に関する旧評議員会での検討経緯について補足説明があり、研究業績賞の扱いについては新評議員

会の学会活動特別委員会(国友主査)が継続検討することになったので、理事会からも意見を出して頂きたい旨の依頼があった。

<議題10>「入会のお誘いについて」改訂について

旧評議員会・旧理事会からの引き継ぎ事項である題記の点につき、他学会等の例等を参考とし、より視覚に訴える文書への改訂を岩下理事が担当することになった。

<議題11>入退会者の承認

入会2名、逝去退会1名が報告承認された。

<議題12>その他

【日本経済学会連合】竹村理事長より日本経済学会連合の委員を西郷理事に依頼する旨の提案があり、承認された。

【和文誌の年2号刊行化】竹村理事長より、加納前和文誌編集担当理事から第34巻の和文誌1号目の編集状況に関する報告と共に、和文誌年2号刊行化に伴い雑誌名称や号数の付番方式に関する照会があった旨の説明があった。意見交換を行った結果、名称と巻号等を「日本統計学会誌第xx巻シリーズ」第y号、英文名称は“Journal of the Japan Statistical Association: Japanese Issue, Vol.xx, Series J No.y”とし、和文誌だけで通しページを振る形を基本とする、との提案を編集委員会に伝え、最終調整を加納前理事に依頼することになった。この変更に伴い、雑誌のISSN等を和文誌について改めて申請する必要が生じるかどうかについて調べ、適宜対応することになった。なお、和文誌の年2号刊行化に伴う編集方針に関して意見交換を行った。

【監事の選任について】二名の監事候補者を評議員会へ推薦する件を理事長と会長に一任することになった。

【学会関係諸費用の研究費等での支弁に対する便宜について】題記について会員へのサービスとして学会事務局側も可能な対応と手続きを検討す

ることになった。

【次回の日程】 第2回理事会を2004年11月27日(土)に開催予定である。

9.2 2004・2005年度第2回理事会議事録

日時: 2004年11月27日(土)

場所: 統計数理研究所会議室

出席者: 藤越康祝会長, 竹村彰通理事長, 田中勝人, 田村義保, 宮川雅巳, 西郷浩, 前田忠彦, 汪金芳, 栗原考次, 大屋幸輔, 佐藤整尚, 岩下登志也, 丸山祐造

報告事項:

<議題1>会長, 理事長, 各理事からの報告

【会長】

藤越会長より, 11月13日に開催された評議員会での議題及び決定事項の報告があった。

また2006年に75周年を迎えるにあたり, 記念行事として何を行うべきかを各理事が検討するよう提言があった。

【理事長】

・評議員会関係

竹村理事長より, 評議員会での議題及び決定事項のうち, 監事2名の選出, 研究部会1件の新設, について報告があった。なお, 前田庶務担当理事より, 現在研究分科会が3件活動しているが, 研究部会は12月に1件が終了し, 1件が新規に活動を始めるということであり, 応募がやや低調である旨の補足説明があった。

・その他

規制改革・民間解放推進会議で官庁統計を民間開放すべきとの議論が進んでいることに対し, 宮内義彦議長に信頼性維持のため最大限の配慮をして欲しいとの申し入れを行った。また, これと別に一般向けの緊急アピールを学会ホームページ上に公開した。

統計関連学会連合理事会に関して, 各学会が2名ずつ出すことになっている理事として, 藤越会長, 国友渉外担当理事が対応することになった。

【欧文誌】

田中担当理事より, 欧文誌(34巻2号)が12月に発行予定であるとの報告があった。

また近年外国からの投稿数が増加しており, 全体としても投稿数が増加傾向にあるとの報告に対し, 今後も増えるようであれば一巻当たりのページ数を増やすことを検討すべきとの意見も出た。

【和文誌】

欠席の鎌倉担当理事に代わり前田庶務担当理事より, 最新号の表紙から, ログマークを入れた新しいデザインに変更されたこと, 一つの掲載論文のrunning headにミスがあり, 次号に訂正文を掲載することになった, との報告があった。ISSN番号変更の是非については, 引き続き検討することになった。

【広報(会報)】

大屋担当理事より, 次号の122号は発行に向けて準備を始めた段階であり, 12月末に原稿締切, 1月末に発行予定であるとの報告があった。

また過去2年間の会報1月号で和文誌への投稿の呼びかけ記事があることから, 今年度も掲載の意向があるか否かを, 和文誌担当の鎌倉理事に確認することになった。会報の表紙にログマークを入れる件は, 引き続き検討することになった。

【広報(ホームページ)】

栗原担当理事より, ホームページに置かれる会報が, 最新号から印刷業者提供のpdfファイルに変更されたとの報告があった。

汪担当理事より, 英文ページの更新が着実に進んでいること, また相互リンクの件でASAとコンタクトを取る予定である, との報告があった。

【渉外】

欠席の国友担当理事に代わり佐藤庶務理事より, 2006年度の連合大会の開催地が未定であり, 適当な候補地があれば国友理事まで提案して頂きたいとの要望があった。

田村担当理事より, 科研費への応募の呼びかけを会報121号に掲載したことの報告と, 賛助会員として入会して頂けそうな候補をリストアップし, 今後交渉予定である旨の説明があった。

【大会企画】

宮川担当理事より、11/20に開かれた連合大会企画委員会の報告があり、それを受けて対応を協議した。

【庶務】

佐藤庶務担当理事より、南前庶務担当理事からの会計関連の引き継ぎが完了したとの報告があった。また関根事務局員の退職後に起こり得る問題への対応を協議した。

また前田庶務担当理事より、学会誌刊行等の支援を目的とした科研費（研究成果公開促進費）に例年通り応募したとの報告があった。

<議題2>会長選挙準備状況

佐藤庶務担当理事より、投票用紙を選挙権を持つ会員に発送済みであるとの報告があった。

審議事項：

<議題3>入会案内書の改訂について

岩下渉外担当理事より、入会案内書の修正案が紹介された。議論の結果を踏まえて、岩下理事が次回理事会までに再度修正版を作成することになった。

<議題4>学会ホームページの運用方針について

竹村理事長より、学会のホームページの管理等が長い間特定の個人に負担が掛かってきたことへの懸念があり、部分的に業務委託を検討しているとの報告があった。

<議題5>電子ジャーナルの公開方針について

前田庶務担当理事より、電子ジャーナルの現状と問題点が報告され、今後の方向性を、平成18年度以降の科学研究費（研究成果公開促進費（データベース））への応募も視野に入れつつ、議論した。特に著作権に関わることを含めて、電子ジャーナルに関連する問題を岩下渉外担当理事が対応することになった。

<議題6>入退会者の承認

資料が回覧され入退会者の承認がなされた。

9.3 2004・2005年度 第3回理事会議事録

日時：2004年1月22日（土）

場所：統計数理研究所会議室

出席者：山本拓会長、竹村彰通理事長、田中勝人、田村義保、宮川雅巳、西郷浩、前田忠彦、汪金芳、栗原考次、佐藤整尚、岩下登志也、今野良彦、丸山祐造

報告事項：

<議題1>会長、理事長、各理事からの報告

【会長】

山本会長より、就任のあいさつがあった。藤越前会長との引き継ぎ事項が配布資料に基づいて説明された。

【理事長】

竹村理事長より、次期日本学術会議会員の選出方法の仕組みが解説された。

これまでは、統計学研究連絡委員会を通じて学会の意向が反映されてきたが、新しい学術会議では、そのような各学会の意向が反映しにくくなる仕組みになることが大きな変更点である。

但し今回は経過的措置として、各学会に会員候補者としてふさわしい科学者に関する情報を提供しよう依頼があったため、評議員からの推薦をもとに藤越前会長と竹村理事長で最終的な候補者8名を選出し、学術会議側に報告した。

官庁統計調査の民営化が検討されていることに対して、統計学会が応用統計学会と共同で、民営化の検討が性急であるので、信頼性維持のために最大限の配慮をすべきとの緊急アピールを出した件で、その後の進展が報告された。その後学会として、緊急アピールを補完するものとして、官庁統計の今後のあり方についてよりポジティブな対案を出していくことが議論された。その一つの具体化として連合大会で「官庁統計のあるべき姿」のような企画セッションを設けてはどうかとの意見も出た。

横断型基幹科学技術研究団体連合は、統計学会を含む40学会が参加する会員数6万人程度の学会

連合であり、1/18, 19に学会会議と共催でシンポジウムが開催されたとの報告があった。元来横断的な学問である統計学にとっては、今後前向きに付き合っていくべき連合であるとの認識が示された。

【欧文誌】

田中担当理事より、欧文誌（34巻2号）が12月に無事発行されたこと、昨年52本の投稿中、32本が処理済みで20本が未処理であるとの報告があった。今年も昨年と同程度の投稿が見込まれるが、日本人の投稿が減少傾向なのが若干懸念されるとの意見が出た。

【和文誌】

前田庶務担当理事より、加納前担当理事への照会結果として、和文誌（34巻2号）については、統計学会賞受賞者の論文掲載関係の作業を経て、3月中に発刊見込みであるとの報告が紹介された。また欠席の鎌倉和文誌編集担当理事からは、現在企画の腹案が3件あり、それぞれ5人ほどの執筆依頼の候補を考えていること、経済関係の企画は現在編集委員のメンバーと企画立案中であること、について書面での報告があった旨付言された。

【広報（会報・ホームページ）】

栗原担当理事より、会報122号が間もなく刊行されるとの報告があった。

また日本テスト学会から相互リンクの依頼があるとの報告に対し、議論の結果承認された。今後は、手続きの迅速化のため担当理事が理事会メンバーリストで流し、承認をとることになった。汪担当理事より、英文ページの更新が着実に進んでいるとの報告があった。

【大会（企画・運営）】

連合大会に関連して、宮川大会企画担当理事より企画の進行状況に関する記事、大瀧大会運営担当理事より第73回大会への参加のお誘いの記事が、それぞれ会報第122号に掲載されるとの報告があった。

関連して、連合大会ホームページの準備方針と連合大会に協賛予定の連合3学会への対応を議論

した。またチュートリアルに関して、1件が確定し計量生物関係で1件検討中であるとの報告があった。

【渉外】

国友担当理事より、2006年度の連合大会の開催地を打診中であり、まだ具体化していないとの報告があった。さらに統計関連学会連合理事会の現状と、2/4開催予定の委員会で連合理事会理事長が選出される予定であるとの報告があった。

田村担当理事より、4月から研究分科会の立ち上げを予定しているとの報告があった。

【庶務】

佐藤担当理事より、会長選挙の結果1/1付けで山本会長が就任されたこと、今年の各賞について、4月発行の会報で推薦を依頼、6月に締め切り、7月に選考委員会で受賞者決定、9月に賞の受賞式を予定しているとの報告があった。前田理事からは、選考委員会の手続きについて追加説明があった。

前田担当理事より、前回の退会希望者のうち1名について慰留に成功したとの報告があった。連合大会の事務局としては、本学会から佐藤・前田の両庶務理事が参加し、他の2学会からもそれぞれ2名の担当者が出て発足見込みであるとの報告があった。

審議事項：

<議題2> 入会案内書の改訂について

岩下渉外担当理事より、入会案内書の修正案が紹介された。ファイルを添付して理事会メンバーリストに流し、各理事のコメントに基づいてさらに修正を施し、最終版を作成することになった。

<議題3> 韓国統計学会

竹村理事長より、韓国統計学会との交流の一環で双方の大会に交互に招待セッションを企画することになっており、今年度は11月4 - 5日にソウルで開催される韓国統計学会大会に、統計学会から二人の研究者が招待されることになっていると

の報告があった。

議論の結果、会長と理事長が相談して、その候補者を推薦することになった。

<議題4> 電子ジャーナルの公開方針について

前田庶務担当理事より、前回理事会に引き続き電子ジャーナルの現状と問題点が報告された。特に情報学研究所の電子図書館サービスの変革の概要が説明され、統計学会は無料公開の方針を継続することになった。

電子ジャーナルに関する具体的な問題については岩下渉外担当理事と丸山庶務担当理事が担当することになった。

<議題5> 75周年記念関係の行事

75周年記念行事を、連合大会内で行うかそれとも別に行うかについて、また何をすべきかについて、今後も継続して議論していくことになった。

<議題6> 雑誌購読料

学会誌の発行回数増で雑誌購読料も上げるか否

かを検討したが、据え置いて機関購読者を増やすことを目指すことになった。

については丸山庶務担当理事が機関購読の案内を作成し、様々な機関に送付することになった。

<議題7> 庶務理事の体制及び役割分担

統計数理研究所だけから庶務理事が選出される仕組みを、2004年度・2005年度理事会で見直したが、今後も統計数理研究所だけに負担がかからないよう配慮していくことになった。

<議題8> 経済学会連合の補助金

西郷理事から、統計学会が加盟する経済学会連合で公募される3種類の補助金について説明があった。今年度についてはメーリングリストに流して、会員に周知させることになった。来年からは会報にも掲載することも決まった。

<議題9> 入退会者の承認

資料が回覧され入退会者の承認がなされた。

10 事務局から

投稿のお願いとお知らせ

統計学の発展に資するもの、会員に有益であると考えられるものなどについて原稿をお送りください。新刊の紹介なども歓迎いたします。

来日統計学者の紹介につきましては、訪問者の略歴、滞在期間、滞在先、世話人などをお寄せ下さい。さらに、求人案内（教員公募）なども受け付けております。

できるだけe-mailによる投稿、もしくは、文書ファイル（テキスト形式）の送付をお願い致します。

原稿送付先

〒560-0043 豊中市待兼山町1-7

大阪大学大学院経済学研究科 大屋 幸輔 宛

Tel : 06-6850-5245 (ダイヤルイン)

Fax : 06-6850-5277

E-mail : kaiho@jss.gr.jp

(統計学会広報連絡用e-mailアドレス)

学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに、氏名と住所を以下にお伝えください。手続きに必要な書類が送付されます。

〒107-0062 東京都港区南青山6-3-9

大和ビル内財団法人統計情報研究開発センター
日本統計学会係

TEL : 03-5467-0481, FAX : 03-5467-0482

E-mail : jstatsoc@sinfonica.or.jp

訃報

次の方が逝去されました。謹んで追悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

安川 正杉会員（2004年）
寺崎 康博会員（2005年3月10日）
藤田正一郎会員（2005年4月3日）

退会者

鈴木利治，若井具宜，吉川富夫，藤川武海，平林宏朗，保谷英哉，階堂武郎，鈴木雅也，船戸亮，西川浩昭，平島真一，石渡徳彌，金田嶮，園田桂子，井伊雅子，本田薫，西銘真紀子，田宮高紀，吉野泰山，仰木裕嗣，石井良昌，河本綏雄，海老江浩一，安道知寛，山内稔，盛本健太郎，中道博，廣岡桂三郎，恒川久子，江田三喜男，小林三郎，楠正，野上佳子

現在の会員数（2005年4月7日現在）

名誉会員	25名
正会員	1456名
学生会員	46名
総計	1527名
賛助会員	17法人
団体会員	3団体

・統計学会ホームページURL：

<http://www.jss.gr.jp>

・統計関連学会ホームページURL：

<http://www.jfssa.jp>

・住所変更連絡用e-mailアドレス：

jusho@jss.gr.jp

・広報連絡用e-mailアドレス：

kaiho@jss.gr.jp

・その他連絡用e-mailアドレス：

jimu@jss.gr.jp

